

平成23年度 さいたま市立与野八幡小学校 自己評価書

さいたま市立与野八幡小学校
校長 林 春 枝

1 学校の教育活動について

学校の教育目標は、昨年から継続し、「自ら学ぶ子、思いやりのある子、たくましい子」、目指す学校像を「児童が生き生きと学び、知力・徳力・体力・コミュニケーション力を培う学校」とした。今年度の努力点は、①学校目標と学年・学級目標や毎月の生活目標との関連性を図るとともに、児童に具体的なめあてをもたせる取り組みを行う。②関心・意欲を高め、技能や学び方を身に付けさせる体育科の学習指導の研究を推進する。③少人数指導やティームティーチングを取り入れた個に応じた指導の充実と基礎・基本の定着を図る。④家庭や地域と協力し「あいさつ運動」と「心を潤す4つの言葉」を推進する。⑤いじめや不登校の早期発見、早期対応を期し、安心して学校生活を送れる環境を確立する。また、スクールカウンセラーや外部機関と連携し「教育相談」の機能を充実させる。⑥読書活動の充実に努める。⑦保護者・地域・関係機関との連携を深め、交通安全等の安全教育の徹底を図る。⑧ICTや視聴覚機器等を活用した「分かる授業」を進めるとした。これら8点に重点を置き1年間取り組んできた。

児童の評価を見ると、「与野八幡小が好き」について、「そう思う」と回答した児童が80%を超え、8ポイント上昇しているのは喜ばしい。また、「友だちと仲良くしている」も80%を超えている。しかし、①目標に向かって努力する②生活目標を守る③自分からあいさつ④話を静かに最後まで聞く等については、「そう思う」が約半数であり、指導を改善していく必要がある。

昨年度も課題となったあいさつへの取組は、児童会、保護者、教職員が組織を挙げてあいさつ運動を実施してきた。よい評価が得られず、まだまだ改善点は多いが、昨年度より「そう思う」の回答が8ポイント上昇しており、取組の手ごたえを感じている。今後も継続していきたい。

生徒指導・教育相談では、友だちと仲良く生活し、喜んで登校しているという項目の評価が高いものの、個々の子どもへの誠実で適切な対応という点で、教職員によって対応に差があるとの指摘を受けた。改善したい点である。給食指導や安全指導等は、昨年度よりポイントは上がっているが、いくつか改善点が指摘されている。家庭・地域との連携では、授業参観・学校行事等が概ね適切に行われているという評価を得た。

2 教職員及び児童、保護者等による評価結果

(1) 達成することができた項目

- ①生徒指導・教育相談(友だちとなかよく生活している。学校が好きで、喜んで登校している。給食指導)
- ②家庭、地域住民との連携(学校行事等が適切に行われている)

(2) 達成することができなかった項目

- ①教育活動・授業(個に応じた指導、子どものよさや可能性を伸ばす、ICTを活用した授業)
- ②経営方針・重点目標(学校や家庭であいさつのできる子ども、体力づくりに励む子ども)
- ③生徒指導・教育相談(子どもの悩みやトラブルへの対応)
- ③施設・設備(トイレ等の修繕)

3 改善策

- ①「あいさつ運動」及び「心を潤す4つの言葉」の継続指導
 - ・ 指導方法、取組方法の再検討
 - ・ 保護者、地域の方々との連携
- ②学習指導と教育相談体制の充実
 - ・ 教職員研修の充実で、力量を向上させる。
 - ・ 「迅速・誠実・アフターケア」を合言葉にして、機動力のある組織づくりをする。
- ③スクールサポートネットワークの構築
 - ・ 学習支援ボランティアの募集